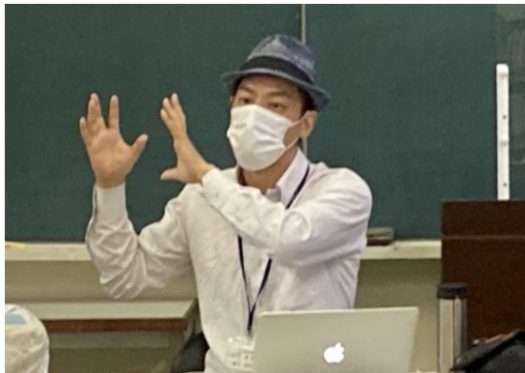


里海フォト 発見&発信講座 開催しました！



- 日時 令和3年10月17日（日）13：30～16：30
- 会場 瀬戸内海歴史民俗資料館
- 講師 ゆう さかな 氏（デザイナー&フォトグラファー）

10月17日（日）、瀬戸内海歴史民俗資料館にて、「里海フォト 発見&発信講座」を開催し、6名が受講しました。今回の講座は、建物自体がフォトジェニックで五色台山上からの瀬戸内海のパノラマが楽しめる「瀬戸内海歴史民俗資料館」を舞台に、スマートフォンによる写真撮影を通して、海に関心を持って里海について考えるきっかけとし、SNS上で里海の魅力を発信できるようになることを目的として開催しました。

初めに座学による講義を行い、講師の自己紹介や活動状況を変え、SNSの有効な活用法について学びました。

次に、撮影時のポイントとして、

- ・「水平」を意識する
- ・「何を撮るか」より「何を撮らないか」が重要
- ・「透過、反射」について
- ・「奥行き」、「余白」について
- ・「引き」と「寄り」で視点を変えてみる

など、講師の撮影した手本の写真を比較しながらわかりやすく解説、アドバイスをいただきました。



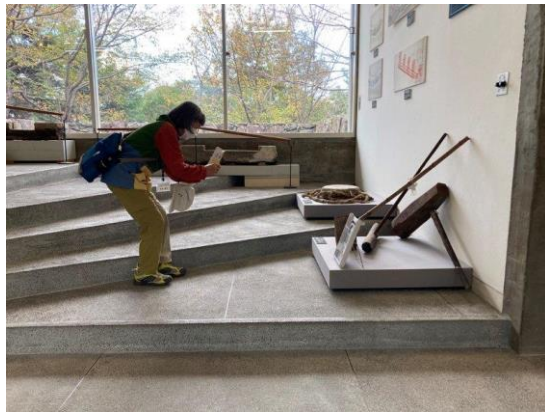
座学の後は、瀬戸内海歴史民俗資料館 田井館長の案内で、館内展示物の見学を行いました。

館内には、瀬戸大橋の計画時に地盤をボーリング調査した際の実物標本や、当時の船大工が作った和船や備品、瀬戸内の伝統的な漁具など、歴史をたどる品々が展示されており、歴史的背景を交えながら詳細にわたり解説していただき、受講生は熱心に聞き入っていました。

館内見学の後、自由撮影の時間としました。

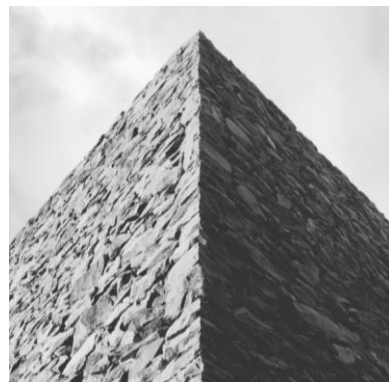


敷地内には、瀬戸内海を一望できる展望デッキや、石垣のような外壁、古びたポスト、高松港でかつて使用された赤灯台の現物、館内に点在する白い石膏製のリング（館内の「瀬戸内ギャラリー」で現在展示中のアート作品の一部）など、撮影映えする対象物が数多くありました。受講生は、数ある対象物の中から、各々の視点で被写体を選び、遠近感を効果的に使うなどの座学で学んだテクニックを思い出しながら、時間を忘れて撮影に没頭していました。途中、講師に助言を求める受講生の姿も多く見受けられました。



撮影の後、受講生が「#かがわ里海大学」でInstagramに写真をアップロードし、その写真を講師がプロジェクターで投影しながら、鑑賞及び講評を行いました。

受講生が自ら撮影した写真を見ながら、講師から撮影者の構図や意図に対する評価とアドバイスももらったので、受講生は自信になったようでした。また、講師からは、ここでしか撮影できない「映える構図」や「興味を引くアイテム」の写真をアップロードすることで、「同じ写真を撮影したい」という人が増え、三豊市の父母ヶ浜のような観光スポットに発展するケースも珍しくないとお話もありました。



※受講生が実際に撮影し、Instagramに投稿した写真の一部（#かがわ里海大学）

瀬戸内海歴史民俗資料館は五色台の山上に位置する為、多少風が強かったものの、天候にも恵まれ良い撮影日和となりました。受講生のみなさんは、子ども連れの方や、初めてInstagramに投稿する方など様々でしたが、今日からでもすぐに生かせるテクニックを数多く学ぶことができ、有意義な講座となりました。